

令和 2 年度 県立下館第一高等学校附属中学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	中学 6	学校名	県立下館第一高等学校附属中学校				課程	義務課程		学校長名	赤田部 清浩					
教頭名	木村 厚夫								事務(室)長名	飯村 好明						
教職員数	教諭	7	養護教諭	0	常勤講師	0	非常勤講師	1	実習教諭, 実習講師, 実習助手	0	事務職員	0	技術職員等	0	計	8
生徒数	1年		2年		3年		合計		合計		合計		合計		合計	クラス数
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	合計	合計
	20	20	0	0	0	0	20	20	20	20	20	20	20	20	1	1

2 目指す学校像

<p>【目指す学校像】 自主自立の精神を有し、地域のリーダーや国際社会で活躍する人財を育成する学校</p> <p>【育てたい生徒像】 広い視野をもち、国・地域社会の発展に寄与できるリーダー</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 答えなき課題にも論理的な思考で探究を重ね、主体的にチャレンジする生徒 ○ 豊かな表現力・コミュニケーション力を身に付け、他者と協働しながら課題を解決できる生徒 ○ 未来のリーダーとして活躍できる、知・徳・体のバランスのとれた生徒

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
教科指導	主体的・対話的で深い学びを意識し、問題解決型学習スタイルや協働的学習スタイルの授業を実践していく。そのため、生徒一人一台のデバイス環境や電子黒板、遠隔教育システム等、ICT機器の積極的な活用に取り組んでいる。	55分授業と授業時数増（国語、数学、英語、理科）によるゆとりある学びの実現、また、習熟度別授業等（国語、数学、英語）による個に応じた指導の充実、更に、ICT機器を活用するなどして、学習の個別最適化を目指す。
生徒指導	発達段階に応じた生徒指導を展開することで、望ましい生活習慣を確立するとともに、協働や助け合い、合意形成や意思決定の経験を通して心の成長を促し、生徒の自己実現を目指している。	中学生どうし、地域の中学生、高校生や、高入生、5校プロジェクトによる他校生等、交流の機会を充実させ、生徒の心の発達を支援する。中高一貫教育により育てたい生徒像を共有し、発達段階に応じた指導を展開する。
進路指導	学校で学ぶことと社会との接続を意識させ、一人一人の社会的・職業的自立に向けて基盤となる資質・能力を明らかにして、キャリア発達を促す取組の充実を図るようにする。	高校生や卒業生、社会で活躍する人財との交流等を通して、夢を語り合う活動を充実させ、将来の夢や希望を育むようにする。また、キャリア・パスポートの作成を推進し、生徒が活動を記録し、蓄積していくことで、自身の活動を振り返り、成長を確認できるようにするとともに、将来に意欲をもてるようにしていく。
特別活動	様々な集団活動を通して、自己や学校生活を捉え、課題を見だし、その改善・解消に向けて、よりよい集団や学校生活を目指している。	協働する様々な集団活動において、課題を共有したり、協働して課題解決に取り組んだりする活動を設定する。その中で、行動の仕方を考えたり、合意形成を図ったり、意思決定したりする体験を通して、生徒の自己実現を支援する。
働き方改革	質の高い効率的な組織運営の実現を目指して、適切な役割分担と連携のある組織づくりを推進する。報告・連絡・相談と指導・助言・調整が機能的に働くようICT機器等の積極的な活用に取り組んでいる。	「きんむくん」を活用して勤務時間の管理を実施し、時間を意識した働き方を推進する。また、勤務の効率化を図るため、ICTを活用した情報発信・共有を図り、勤務の効率化を推進する。

4 中期的目標

<p>1 地域の中で学ぶ6年間の教育活動を柱に、探究活動等を通じて国際教育や科学教育などを展開する。 輝け！私たちの未来「探究プロジェクト」（附属中学校5校の連携）、総合的な学習の時間（地域探究セミナー）</p> <p>2 一つ一つの知識をつなげ、確かな学力を育成する。</p>
--

<p>授業時間増 (1 単位時間 55 分, 国語・数学・理科・英語の時間増), 習熟度別学習等 (国語, 数学, 英語), ICT教育の推進</p> <p>3 豊かな人間性やコミュニケーション能力を育成する。 複数担任制, 異年齢交流</p> <p>4 質の高い効率的な組織運営の実現を図る。 働き方改革の推進, ICT環境の活用</p>
--

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
教科指導の充実を図り, 再現性のある学び方を習得する。	<p>① 問題解決型の主体性と達成感のある授業を実践し, 主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。アクティブ・ラーニングの視点から授業改善に取り組み, 思考力・表現力・判断力の伸長を図る。</p> <p>② 総合的な学習の時間での地域探究セミナーの活動を通して, 科学的に探究するための手法について習得させる。</p> <p>③ ペアやグループで取り組む対話的・協働的な授業を通して, コミュニケーション力を育む。</p> <p>④ ICT環境 (一人1台のデバイス, 電子黒板, デジタル教科書, 学習支援ソフト) を効果的に活用し, 学習の個別最適化を推進する。</p>
基本的な生活習慣の確立と豊かな心を育み, 集団を意識して行動できる力を養う。	<p>⑤ 学級活動や文化祭・体育祭等の運営に携わらせることで, 集団における行動の仕方を身に付け, また, 合意形成を図ったり, 意思決定したりする経験を通して, 集団を意識して行動できる力を養う。</p> <p>⑥ クラス合宿や国内語学研修, 修学旅行等において, 協力し合ったり助け合ったりする経験を通して, 学校生活や社会で生きて働く力の基盤となる協働する力を育む。</p>
多様性を受け止め, 他を尊重する資質を養う。	<p>⑦ 国際教育を推進し, 異文化や国際理解への関心を高めていくため, コミュニケーションツールとしての英語力の向上を図る。</p> <p>⑧ 学校教育活動全体に, ALTとの交流を位置付け, 日常的な異文化交流を推進する。</p>
特別活動の充実と多感な発達段階をサポートする体制づくり	<p>⑨ 地域探究セミナーや5校連携による探究プロジェクト等, 様々な機会における, 中学生どうし, 中学生と高校生, 他校生等との交流の機会を通して, 人間関係づくりや心の成長を促すようにする。</p> <p>⑩ 複数担任制における学年運営を通して, 生徒一人一人の発達段階に寄り添ったかわりを目指す。また, 教育相談やグループエンカウンター等, 心の安定や人間関係づくりに配慮した支援体制を構築する。</p>
キャリア教育の推進し, 社会における自己の生き方を考える。	<p>⑪ 総合的な学習の時間において, 地域探究セミナーを開設し, 地域の課題をテーマとした探究活動に取り組んでいく。課題の発見や解決に必要な知識及び技能を身に付け, 活用する活動を通して, 自分と社会のかかわりについて理解を深められるようにする。</p> <p>⑫ 令和2年開校5校による探究プロジェクトを通して, 郷土の課題を捉え, 他校の生徒との交流を通して, 社会に対する理解を深めていく。</p>
いじめの未然防止と早期発見, 早期解消の確立を図る。	<p>⑬ アンケートや教育相談, グループエンカウンターを定期的実施するなど, 1学年1学級による人間関係の固定化に配慮した生徒同士の人間関係づくりに積極的に取り組む。</p> <p>⑭ いじめの未然防止・早期発見のため, 複数担任制に加え, 中学校全職員による見守り体制の充実を図る。また, いじめの問題解決に当たっては, いじめられている生徒や保護者の立場に立ち, 校長を中心として組織的に対応する。</p>
組織的な学校運営を基に, 働き方改革を推進する。	<p>⑮ チーム附属中として, 高校との連携を図りながら, 報告・連絡・相談と指導・助言・調整が機能的に働く組織づくりに努める。</p> <p>⑯ 適切な役割分担と連携を目指して, 責任と権限の明確化を図る。</p> <p>⑰ 時間を意識した合理的な学校運営を実現するため, ICT機器を効果的に活用した情報伝達・共有を推進していく。</p> <p>⑱ 「きんむくん」を活用した在校時間の管理を実施し, 時間を意識した働き方について改善・改革を推進する。</p>
広報活動と地域との連携を推進する。	<p>⑲ ホームページやスクールガイド, チラシ等を活用し, 附属中の特色ある教育活動を積極的に発信する。</p> <p>⑳ 生徒の参画を企図し, 小学校との連携や小学校訪問, 学校説明会や学校公開の充実を図る。</p> <p>㉑ 総合的な学習の時間における地域探究セミナーにおいて, 筑西市や地元企業との連携を推進する。</p>